

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた課題と取組の状況

【特徴(強み)】

保健所が中心となり、圏域内の精神障害者の地域移行に関わる支援機関と連携して取組みをしてきた経緯がある。保健所主催の協議会や研修会と、圏域ごとの自立支援協議会での精神障害に関する協議の場が連携している。

課題	課題に解決に向けた取組状況	取組の成果
①自立支援協議会と保健所の圏域協議会との役割や、地域移行・地域定着について圏域により取組状況がまちまちである。 ・役割やシステムづくりが十分にできていない。 ・県内全体の方向性が不明確。	・各圏域でのコアメンバー(医療、福祉、行政)が集う場(ワーキング)を設置し、各圏域での取組みや情報の共有や必要な研修等を行う。今年度は3回実施した。 ・各圏域毎の包括ケアのチェックと評価、事例検討(高齢分野と地域移行)、1年の振り返りと共有を行った。 ・広域アドや密着アドの支援を県内全域にも広げた。	・各圏域の取組みやアドバイザーからの助言を直接やりとりできる機会となり、自分の圏域の振り返りと、他圏域の参考となる情報を持ち帰り検討することができた。 ・各圏域の共通の課題が見えてきた。高齢者との連携は課題。住まいの問題は手が付けれしていない。
②ピアサポーターの研修体系の見直しとピア活躍の場・機会の拡大	・ピアサポーターワーキング(高松)の設置にて協議、ピア中心に養成研修の企画運営実施。 ・代表者がピアの専門研修に参加した。 ・ピアと支援者のニーズの聞き取り調査にて課題を整理し、ピアと協働で企画会議。周知のための活動報告会の実施予定。	高松ではワーキングメンバーが出向いてピアと支援者の直接聞き取り調査を行い、ピアとともに企画会議を行うことで、ピアと支援者の顔が繋がりとともに考えていく土台ができた。

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (現時点)※	目標値 (令和元年度末)	達成状況の見込み(評価)
①圏域ごとの包括ケアワーキングの実施と内容	3	2	3回実施し、各圏域の情報交換の場と取組み課題の共有ができた。
②ピアサポーターワーキングの回数と会議のピアの参加人数	8	4	ワーキング7回、ピアとの企画会議2回と報告会を実施。企画会議にピア5人が参画。

※現時点の値が分かれば記入して下さい。分からない場合は、年度当初の値で構いません。

●指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。